

科目名	作業療法評価学演習											
科目名(英)	Seminar for OT Assessment											
単位数	2	時間数	60時間	担当者	野村 和代							
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務							
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年											
授業概要	作業療法を実施するためには対象者を全人的にとらえることが重要である。しっかりと問題点を把握し、その人がその人らしく生きるためゴールを設定しその達成のためのプログラムを立案することも必要である。この講義では、そのために要する評価の目的や臨床的意義を理解し、各種の検査・測定法を実施できるようになることを目的としている。最終的には模擬症例を用いて、評価結果を統合・解釈し、プログラム立案へ結びつけることも目指している。											
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	△	※ 主たる方法:	○	その他:	△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				作業療法における評価の目的を理解し、説明できる。						
	○	○				作業療法評価に必要な各種の検査・測定法の臨床的意義を理解し、実施できる。						
	○	○		○		模擬症例の評価結果から問題点を抽出できる。						
	○	○		○		模擬症例に対するプログラム立案ができる。						
テキスト・教材 参考図書	1) 岩崎テル子他 編、標準作業療法学・作業療法評価学 第2版、医学書院2011。2) 市川和子 編、作業療法臨床実習とケーススタディ 第2版、医学書院2011。3) 上田敏 著、ICFの理解と活用、第1版、萌文社2008。4) 中里 瑠美子 著、片麻痺の作業療法、第1版、共同医学出版社2016。5) 鈴木則宏 編、神経診察クローズアップ、第2版、メジカルビュー社2016。参考文献: 1) 樋口真広他 著、身体運動学 第1版、三輪書店2008。2) 田崎 嘉昭他 著、ベッドサイドの神経の診かた、第15版、南山堂2002。3) 西条 勇夫 監修、リハビリテーションのためのニューロサイエンス、第1版、メジカルビュー社2015。4) 本間 光信他 編集、リハビリテーションのための画像の読み方、第1版、メジカルビュー社2015。5) 松原真子他 著、ペインリハビリテーション 第1版、三輪書店2011。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	意識とバイタルサイン					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	2	意識とバイタルサイン／筋緊張と反射検査					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	3	筋緊張と反射検査					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	4	小脳の機能と協調性					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	5	小脳の機能と協調性／知覚の評価					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	6	知覚の評価					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	7	知覚の評価／疼痛の評価					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	8	疼痛の評価					内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。配布文献の精読。					
	9	上肢機能の評価／疾患別評価:脳卒中(脳神経検査／片麻痺機能検査ほか)					疾患別評価の当該疾患に関する復習。					
	10	疾患別評価:脳卒中／脊髄損傷					疾患別評価の当該疾患に関する復習。					
	11	疾患別評価:脊髄損傷／関節リウマチ／パーキンソン病 その他					疾患別評価の当該疾患に関する復習。					
	12	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:模擬症例における評価手段選択と問題点抽出)					『臨床実習とケーススタディ』の指示した箇所を精読し、ケーススタディの予習しておく。					
	13	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:模擬症例におけるゴール設定・OTプログラム立案)					ケーススタディのグループワーク担当箇所を調べてまとめておく。					
	14	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:まとめ)					ケーススタディのグループワーク担当箇所を調べてまとめておく。					
15	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ:発表とレポート提出)					発表の準備。試験に向けての学習。						
評価方法	(1)ケーススタディの発表とレポートを1回提出する。(2)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%					
	レポート	◎	◎		◎		20%					
履修上の注意	実技指導時の服装は、学則及び臨床実習時の心得に順ずる。(実習着・実習靴・白い靴下・長髪はまとめる)											

科目名	身体障害作業療法学演習						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction ; Practice						
単位数	3	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	この授業は、実際作業療法を行う上で何がクライアントにとって必要なことかを考える授業である。その為には基礎医学、臨床医学、作業療法理論、基礎作業学実習、作業療法評価学を統合する必要がある。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				作業療法の対象となる代表的な疾患について説明できる	
	◎	◎				作業療法の具体的な介入方法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	①身体障害作業療法学(ゴールドマスター・テキスト4) ②図解 作業療法技術ガイド ③身体障害領域の作業療法 ④病気が見える7 脳・神経 参考文献:参考文献は、その都度紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【各論】頭部外傷(疫学、分類、症状) 【各論】頭部外傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	2	【各論】脊髄損傷(疫学、分類) 【各論】脊髄損傷(症状)					
	3	【各論】脊髄損傷(作業療法) 【各論】脊髄損傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	4	【各論】パーキンソン病(疫学、分類) 【各論】パーキンソン病(症状)					
	5	【各論】パーキンソン病(作業療法) 【各論】パーキンソン病(作業療法)				課題プリントの作成	
	6	【各論】筋萎縮性側索硬化症 【各論】脊髄小脳変性症				課題プリントの作成	
	7	【各論】ギランバレー症候群 【各論】多発性硬化症				課題プリントの作成	
	8	【各論】関節リウマチ(疫学、分類) 【各論】関節リウマチ(症状)					
	9	【各論】関節リウマチ(作業療法) 【各論】関節リウマチ(作業療法)				課題プリントの作成	
	10	【各論】末梢神経損傷(疫学、分類) 【各論】末梢神経損傷(症状)					
	11	【各論】末梢神経損傷(作業療法) 【各論】末梢神経損傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	12	【各論】骨折(疫学、分類) 【各論】骨折(症状)					
	13	【各論】骨折(作業療法) 【各論】骨折(作業療法)				課題プリントの作成	
	14	【各論】内部障害(呼吸器疾患) 【各論】内部障害(循環器疾患)				課題プリントの作成	
	15	後期の振り返り					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	レポート	◎	◎				20%
履修上の注意	グループを作成し演習を行う						

科目名	発達障害作業療法学演習										
科目名(英)	OT for Developmental disorder ; Practice										
単位数	2	時間数	30	担当者	小野 仁						
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務						
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年										
授業概要	1. 人間発達学で学んだ知識と発達障害作業療法学で学んだこと、そして実際の介護体験実習で学んだことを整理する。 2. 発達障害分野の各疾患について学ぶ。 3. 発達障害分野の各疾患へ対する作業療法の知識を学ぶ。 4. 対象児者や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりについて学ぶ。 5. 介護体験実習Ⅱで、こどもたちの特徴を考え、こどもたちが楽しめる遊びや活動を提供する。										
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	△	実技:	△	※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。					
	○	○				代表的障害(知的障害、筋ジストロフィー、ダウン症、二分脊椎等)について臨床像を説明することができる。					
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。					
	○	○		○		特別支援学級での介護体験実習に参加し、児童・生徒と安全に配慮しながら、遊びや活動等を提供できる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書: 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版、メディカルビュー、2015 参考文献: 岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]、三輪書店、2001 作業療法学全書 改訂第3版 第6巻「作業治療学3発達障害」、協同医書出版社、2010 その他										
授業計画	回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
	1	介護体験実習の振り返り(グループワーク)									
	2	介護体験実習の振り返り(まとめ)									
	3	知的障害に対する作業療法(知的障害とは・評価)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	4	知的障害に対する作業療法(アプローチの実際)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	5	摂食嚥下障害に対する作業療法(嚥下障害とは・評価)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	6	摂食嚥下障害に対する作業療法(アプローチの実際)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	7	筋ジストロフィーに対する作業療法(筋ジストロフィーとは・評価)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	8	筋ジストロフィーに対する作業療法(アプローチの実際)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	9	ダウン症に対する作業療法(ダウン症とは・評価)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	10	ダウン症に対する作業療法(アプローチの実際)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	11	二分脊椎に対する作業療法(二分脊椎とは・評価・アプローチの実際)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	12	分娩麻痺に対する作業療法(分娩麻痺とは・評価・アプローチの実際)						復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等も配信します			
	13	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)									
	14	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)									
15	まとめ										
評価方法	(1)レポートを実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。 以上を下記の観点・割合で評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	○	○				80%				
	レポート	○	○		○		20%				
履修上の注意	特別支援学級での2回の介護体験実習を12月ごろに実施する。日程は調整の上、告知します。 その他、必要なものについては授業の中で提示をします。										

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder Ⅱ						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	①精神障害作業療法の評価と計画を理解する ②精神障害作業療法の基本的な実践を理解する ③疾患の障害特性と作業療法の実践を理解する						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神障害作業療法の評価と計画を説明できる。	
	○	○				精神障害作業療法の基本的な実践を説明できる。	
	○	○				疾患の障害特性と作業療法の実践を説明できる。	
	○	○		○		事例演習を通して作業療法計画の立案を体験する。	
テキスト・教材 参考図書	①香山明美他編:生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)岡岡詔子他編集 日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書)。協同医書出版社 2)石井良和他編:精神障害領域の作業療法。中央法規 3)松井紀和編著:精神科作業療法の手引き。牧野出版 4)屋田源四郎著:統合失調症患者の行動特性。金剛出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 精神障害作業療法の実践				教科書を読み、予習を行う。	
	2	急性期作業療法の考え方と実際 急性期の状態像の理解				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	3	急性期の作業療法(導入) 急性期の作業療法(導入)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	4	急性期の作業療法(評価) 急性期の作業療法(評価)				面接演習のための準備を行う。	
	5	急性期の作業療法(評価演習) 急性期の作業療法(評価演習)				面接演習のための準備を行う。	
	6	急性期の作業療法(プログラム) 急性期の作業療法(プログラム)				面接演習の結果をまとめ、レポートを作成する。	
	7	回復状態の評価指標 回復状態に応じた支援				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	8	退院支援の考え方と実際 退院支援の考え方と実際				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	9	疾患、障害特性と作業療法の実践(統合失調症) 疾患、障害特性と作業療法の実践(統合失調症)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	10	疾患、障害特性と作業療法の実践(気分障害) 疾患、障害特性と作業療法の実践(気分障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	11	疾患、障害特性と作業療法の実践(パーソナリティ障害) 疾患、障害特性と作業療法の実践(神経症性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	12	疾患、障害特性と作業療法の実践(摂食障害) 疾患、障害特性と作業療法の実践(物質依存性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	13	事例演習(グループワーク) 事例演習(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
	14	事例演習(グループワーク) 事例演習(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
15	事例演習(発表) まとめ				事例検討の結果をまとめ、グループ毎に発表しレポートを作成する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						

科目名	高次脳機能障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Higher Brain Dysfunction Assesment						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	高次脳機能障害の概要と各障害の障害像について教授する。また、高次脳機能障害が影響する生活障害について考え 作業療法士の役割についても提示する。併せて、作業療法を実践するうえで必要な画像所見や評価方法の基本的な知識と技術、作業療法介入について教授する。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				高次脳機能障害の定義および典型症状を理解することができる。	
	○	○				高次脳機能障害を抱える人の生活障害をイメージすることができる。	
	○	○				各高次脳機能検査の実施を理解し、実施することができる。	
	○	○				各高次脳検査検査の結果を解釈し、説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1) 鈴木孝治:高次脳機能障害学領域の作業療法. 中央法規 2) 病気がみえる vol.7 脳・神経. MEDIC MEDIA						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイダンスおよび脳の機能解剖					
	2	脳画像の見方				振り返りシートで復習すること	
	3	高次脳機能障害総論				振り返りシートで復習すること	
	4	高次脳機能障害における作業療法の展開				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	5	意識・見当識障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	6	注意障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	7	記憶障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	8	情動障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	9	遂行機能障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	10	失語症に対する作業療法				振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること	
	11	行為障害に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	12	失認に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	13	半側空間無視に対する作業療法				振り返りシートで復習すること	
	14	事例検討				振り返りシートで復習すること	
15	事例検討				振り返りシートで復習すること		
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	ADL支援学						
科目名(英)	Activities of Daily Living ;Practice						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	原田芳美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	1.福祉用具の概念を学び、その給付体系を知る。 2.福祉用具に関する作業療法士の役割を理解する。 3.福祉用具の適応とADLを関連付けて理解する。 4.疾患ごとに適切な介助を考慮することができる。 5.客観的臨床能力試験(OSCE)を用いてADLの介入技能を理解することができる。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:	△	
					※ 主たる方法:	○	
					その他:	△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				福祉用具の概念を学び、その給付体系を説明できるようになる。	
	○	○				福祉用具に関する作業療法士の役割を説明できるようになる。	
	○	○				福祉用具の適応をとADLを関連付けて理解し、説明できるようになる。	
	○	○	○			OSCEを用いてADLの介入技能を理解し、説明できるようになる。	
	○	○				ケーススタディを通して臨床推論を述べるできるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書 1)木之瀬 隆 編集:作業療法学全書第10巻作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備第2版. 協同医書出版社.2009. 2)才藤栄一:臨床技能とOSCE.(機能障害・能力低下への介入編)金原出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	福祉用具概論 福祉用具供給システム 治療に関する機器(治療に関する機器)				配布資料の復習	
	2	生活に関する機器(ベッド周辺機器) 生活に関する機器(移乗補助用具)				配布資料の復習	
	3	生活に関する機器(排泄関連用具、入浴関連用具) 生活に関する機器(座位保持装置 移動補助具)				配布資料の復習	
	4	生活に関する機器(歩行補助具) 腕保持装具 自助具について				配布資料の復習	
	5	環境制御装置・意思伝達装置・スイッチの工夫 環境制御装置・意思伝達装置・スイッチの工夫				配布資料の復習	
	6	住宅改修(住宅の役割と住宅改修の必要性) 住宅改修(基本的な改修項目)				配布資料の復習	
	7	福祉機器展示場見学 (レポート)				レポート作成	
	8	ポジショニングに対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	9	起き上がりに対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	10	起立・着座に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	11	移乗に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	12	歩行に対する介入技能				教科書2)の今回の範囲の予習と復習	
	13	ケーススタディ(脳血管障害)				配布資料の復習	
	14	ケーススタディ(整形外科疾患)				配布資料の復習	
15	まとめ						
評価方法	成績処理方法: (1)レポートを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	宿題・レポート	◎	◎	○			30%
履修上の注意							

科目名	地域作業療法学						
科目名(英)	Community Based Occupational Therapy						
単位数	4	時間数	60	担当者	早川由加里(身障・老人) 小野仁(発達障害) 船元啓行(精神障害)		
実施年度	2020	実施時期	後期	担当者実務経験	早川由加里(介護老人保健施設で作業療法士として勤務) 小野仁(病院・福祉施設で作業療法士として勤務) 船元啓行(病院に作業療法士として勤務)		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、身体障害領域および介護保険領域、発達領域、精神領域における地域作業療法の知識基盤および実践的方法論理解する。また、日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメントの基礎的な知識と実際の評価、マネジメントの方法について理解する。各領域での実践例についても直接触れ、その実践を理解する。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				地域作業療法の理念と役割を説明することができる。	
	◎	○				各領域の地域生活における生活障害の特徴を例を挙げて説明することができる。	
	○	○				学生を相手に生活行為向上マネジメントを模擬的に実施し、介入プランを立案することができる。	
	○	○				模擬症例を通して、地域生活におけるケアプランおよび作業療法プランを立案することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)福岡県社会福祉協議会編:障害者福祉情報ハンドブック2018 2)寺山 久美子編:作業療法学全書別巻 地域作業療法学 協同医書出版社 3)香山明美他編:精神障害作業療法—急性期から地域実践まで 医歯薬出版 参考文献:1)精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム(日本作業療法士協会)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	身障・老人	地域リハビリテーション・地域作業療法概論			講義資料を通して復習しておくこと	
	2		社会資源について(介護保険制度、その他保健福祉サービス)			講義資料を通して復習しておくこと	
	3		ケアマネジメントについて(アセスメントからケアプラン立案までの流れ)			講義資料を通して復習しておくこと	
	4		地域作業療法の実際(作業療法士の活動内容)			講義資料を通して復習しておくこと	
	5		地域作業療法の実際(生活行為向上マネジメントについて)			講義資料を通して復習しておくこと	
	6	発達	地域作業療法の理念と役割、知識基盤			講義資料を通して復習しておくこと	
	7		知識基盤、発達障害児(者)と社会資源			講義資料を通して復習しておくこと	
	8		発達障害児(者)のケアマネジメント、在宅障害児(者)の評価・治療および生活支援			講義資料を通して復習しておくこと	
	9		事例紹介、環境整備・福祉用具			講義資料を通して復習しておくこと	
	10		事例演習			講義資料を通して復習しておくこと	
	11	精神	精神保健福祉の現状と課題 精神障害領域における地域作業療法と評価			講義資料を通して復習しておくこと	
	12		日本作業療法士協会退院促進プログラムとアセスメント 精神障害者に対する地域生活移行・定着支援			講義資料を通して復習しておくこと	
	13		地域作業療法のプロセスと評価			講義資料を通して復習しておくこと	
	14		事例演習			講義資料を通して復習しておくこと	
15	地域作業療法の実際(外部講師)			実際の実践に触れての感想を書く			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 定期試験は、各領域30点で合計90点満点で実施し、素点を100点満点換算し処理する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							